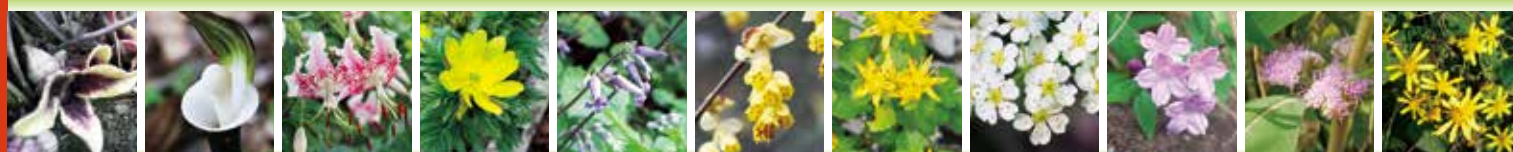


高知県レッドデータブック 2022

植物編



高知県注目種ガイド 2022 植物編



高 知 県

高知県注目種ガイド 2022 植物編



注目種について

1. 注目種とは

本県では数多く確認されている野生生物が全国的には希少であったり、分布と生育状況が特徴的であったりすることがある。そうした生物は、レッドリストカテゴリー（絶滅～情報不足）のいずれにも該当しないため保護対象とならないが、本県の自然を特徴づけるものとして、2017年の動物編レッドリスト改訂の際に「注目種」というカテゴリーが新たに作られた。このカテゴリーによって、県民に身近な自然に関心を持っていただくとともに、高知県の生物の多様性の保全が推進され、豊かな自然が次世代につながることを期待する。

2. 選定の経緯

高知県レッドデータブック（植物編）改訂委員会において、高知県レッドリスト（植物編）2020の改訂作業と並行して選定した。

3. 具体的要件

本県では「絶滅」から「情報不足」までの各カテゴリーのいずれにも該当しない種類で、表3.1に示す要件のいずれかに該当するもの。

表 3.1 注目種の具体的要件

	特性	具体的要件
①	固有性	本県にのみ生育している。
②	分布限界	本県の生育地に北限や南限などの分布限界域が含まれる。
③	希少性	本県では普通であるが、全国的には希少である。
④	隔離分布	本県の生育地が他の生育地から地理的に隔離されている。



(公財)高知県牧野記念財団 四万十市 2018年5月24日

【生育状況と選定の理由】

近年まで高知県の固有種とされていたが、徳島県（県境付近）や愛媛県でも自生地がわかってきた。それでも、四国の域を出ない。県内では中部から西部まで広く分布する。

【分布】

四国（愛媛県・徳島県・高知県）

【県内の分布】

大豊町、本山町、高知市、いの町、土佐町、仁淀川町、日高村、佐川町、土佐市、須崎市、中土佐町、津野町、梶原町、四万十町、黒潮町、四万十市

【生育環境と特性】

常緑樹林内や二次林、スギ人工林、竹林などの林縁部の湿った林床に自生が多い。開花は4月～5月にかけて見られる。四万十町付近では、退化花卉3本を恒常的に持ち、サカワサイシンとホシザキカンアオイの中間的な形態（がく片の中央部から短く欠失）の株が多く見られる。

【特記事項】

遺伝子解析研究で、本種は本県東部のトサノアオイと宮崎県に自生が見られるオナガカンアオイの自然交雑によりできた雑種起源の種であることが明らかとなった（Takahashi et. al 2018）。

牧野富太郎が1893（明治26）年6月に出身地佐川町で採集した標本をもとに命名した。東京大学総合研究博物館に、牧野博士による基準標本2枚が収められているが、Holotypeが決められていない。

佐川町では全域で「サカワサイシン」が天然記念物に指定（1973）されている。

【執筆者】

寺峰孜



細川公子 高知市 2018年4月21日

【生育状況と選定の理由】

環境省レッドリスト2020では絶滅危惧Ⅱ類（VU）になっているが、高知県では全域で確認されている。しかし、四国以外ではまれで、四国内でも高知県が分布の中心である。

田中澄江の随筆集「花の百名山」（1980）に紹介され、和名の持つ清々しいイメージからか、特に県外の植物愛好家の間では高知で観たい花のトップクラスに挙げられる。これはテンナンショウの仲間では特筆すべきであり、本種を目的に高知県を訪れる人も多く、エコツーリズムなど観光資源としても貴重である。何よりも、「高知では普通に観られる」環境を維持していくことが重要である。車道沿いなど人目につくところでは園芸採取による減少が顕著なため、今回注目種としたが、今後も長いスパンで観察していくことが必要である。急激な減少が起こった場合には、絶滅危惧種に変更になる可能性もある。

【分布】

本州（近畿地方・中国地方）・四国

【県内の分布】

県下全域に分布

【生育環境と特性】

里山から深山まであまり環境を選ばず、林内や林縁に広く生育する。

【特記事項】

アオテンナンショウと浸透交雑しているという報告がある（Hayakawa et al. 2010）。

【執筆者】

細川公子

タキユリ

Lilium speciosum Thunb. var. *clivorum* S.Abe et Teruo Tamura

高知県 RL2010: NT

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: VU



鴻上泰 いの町 2013年7月16日

【生育状況と選定の理由】

高知県では中央部に広く分布し、個体数も多いが、環境省レッドリスト 2020 では絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されており、全国的には希少である。初夏の里山を彩る代表的な植物である。6月下旬ころから赤い斑点のある桃色の美しい花を多数つけ、里山で暮らしている人にとっては愛着の深い植物であり、草刈りの時に意図的に刈り残されることによって個体数を増やしているところも多い。

【分布】

四国・九州（西彼杵半島・九十九島）

【県内の分布】

県の中央部に偏って分布する。東は安芸市から西は仁淀川町、須崎市まで生育する。

【生育環境と特性】

母種のカノコユリが直立するのに対し、タキユリは崖や急傾斜な道路・耕作地の法面に生育することが多く、茎が垂れ下がるのが特徴である。崖や急傾斜地に定着できるのは、根が成長の過程で縮むことによって岩の隙間や土壌中にしっかりと食い込むことができるからである。

【特記事項】

昔から栽培されて多数の園芸品種が作出されている。

【執筆者】

石川慎吾



(公財)高知県牧野記念財団 大豊町 2013年3月29日

【生育状況と選定の理由】

高知県では東部と西部に局所的に分布し、生育地ではまとまった個体数が生育している。環境省レッドリスト2020では絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されており、三重県以西、鹿児島県までの生育地でも局所的に生育するため全国的に希少である。まだ他の植物が芽吹く前の早春の里山を一面黄色く彩る植物であり、福を招く良い名前と黄金色の花が小判を連想させて縁起の良い植物とされている。そのため、本種を大切に、人里の生育地を人為的に管理して保護する地域が多い。特に毎年2月中旬から3月に開催される大豊町の福寿草まつりは有名である。

【分布】

本州(近畿地方南部)・四国・九州, 朝鮮半島?・中国?

【県内の分布】

東部は大豊町, 西部は梶原町に生育する。2000年に確認された中部の地点では, その後の調査で確認できなかった。

【生育環境と特性】

日本に生育するフクジュソウの仲間は、キタミフクジュソウ、ミチノクフクジュソウ、フクジュソウ、シコクフクジュソウの4種とされ、本県にはシコクフクジュソウのみ生育している。生育地は、土壌の母岩が石灰岩である場所が多い。また、葉が展開する頃まで直射光がよく当たり、それ以降は日陰になる湿った斜面地に多く見られる。葉が展開するまでに被陰されるようになると衰退する。

【特記事項】

フクジュソウ、ミチノクフクジュソウでは江戸時代より自然状態から選抜された園芸品種が栽培されてきた。シコクフクジュソウは新しく分類された種なので、まだ園芸品種の選別は行われていない。2019年2月に大豊町で八重咲(千重咲)のシコクフクジュソウを確認した。

【執筆者】

橋本季正

オオクサボタン*Clematis speciosa* (Makino) Makino

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: —



竹内清治 四万十町 2021年9月30日

【生育状況と選定の理由】

四国では高知県のみ分布し、四万十川中流域に限られた場所に生育する。九州では大分県、熊本県、宮崎県に分布し、石灰岩地にもみられ、大分県と宮崎県では準絶滅危惧に指定されている。高知県では従来は絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されていたが、産地数と個体数の増加傾向が見られるため注目種とした。

【分布】

四国（高知県）・九州（大分県・熊本県・宮崎県）

【県内の分布】

四万十町（旧大正町、旧十和村）、四万十市（旧中村市）

【生育環境と特性】

林縁ややや明るい林内、林道脇などに生える。川に近い場所に多い。利用されていない林道などで一面に増えることがある。

【特記事項】

高知県の生育地は非石灰岩地。瘦果は栽培下で結実し発芽する。牧野富太郎が旧中村市麻生の標本をもとに記載した。

【執筆者】

鴻上泰



石川慎吾 日高村 2021年3月18日

【生育状況と選定の理由】

本県の蛇紋岩地に広く分布し、個体数も多いので絶滅危惧種には該当しない。本県の固有種で、環境省レッドリスト2020では準絶滅危惧(NT)に指定されており、全国的には希少な植物である。早春に下垂する3~4cmの花をつける。鮮やかな黄色の花弁と濃い赤色の葯が美しいので、庭木や公園の植栽木として人気がある。本県を代表する花木であり、全国的に植栽されている。

【分布】

四国（高知県）

【県内の分布】

中部の蛇紋岩地（高知市，南国市，いの町，日高村，佐川町）

【生育環境と特性】

自然環境では蛇紋岩地以外には分布しないが、人為的に管理された場所では、蛇紋岩土壌でなくても水はけのよい立地であればよく育つ。日当たりの良い場所を好む陽樹なので、常緑樹の陰になるところでは樹勢が衰える。

【執筆者】

石川慎吾

ヒメキリンソウ*Phedimus sikokianus* (Maxim. ex Makino) 't Hart

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: EN



(公財) 高知県牧野記念財団 香美市 2013年7月5日

【生育状況と選定の理由】

高知県では剣山系、石鎚山系および四国カルスト（鳥形山～大野ヶ原）、中津山など石灰岩地を中心に生育し、個体数も多い。四国の固有種で、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧ⅠB類（EN）、徳島県レッドリスト2014では絶滅危惧Ⅰ類に指定されており、全国的には希少である。

【分布】

四国（愛媛県・徳島県・高知県）

【県内の分布】

香美市、いの町、仁淀川町、津野町、梶原町

【生育環境と特性】

山地の岩礫地に生える。

【特記事項】

キリンソウと同種とみなされることもあったが、葉が常に対生することや花茎が8cmを超えないこと、花序が小型で花数が10個以下であることなどの違いから区別される。牧野富太郎が手箱山と鳥形山で採集した標本をもとに記載した。

【執筆者】

鴻上泰

トサシモツケ*Spiraea nipponica* Maxim. var. *tosaensis* (Yatabe) Makino

高知県 RL2010: VU

高知県 RDB2000: VU

環境省 RL2020: —



石川慎吾 梶原町 2021年4月22日

【生育状況と選定の理由】

本県の四万十川と徳島県的那賀川にのみ分布する。四万十川では上流から下流まで広く分布し、個体数も多いので絶滅危惧種には該当しないが、全国的にみると希少な植物である。春の開花期には水辺に白い帯ができるほどであり、四万十川の春の独特な景観を構成する重要な植物である。

【分布】

四国（徳島県・高知県）

【県内の分布】

四万十川（梶原町、四万十町、四万十市）

【生育環境と特性】

主に河岸の岩上に生育する典型的な溪流沿い植物である。生育地は、洪水時には水につかり、夏の日照りの時には厳しい乾燥状態にさらされる過酷な立地であるが、根を岩の隙間に深く伸ばして生育することができる。河川から離れて洪水などの攪乱作用が弱くなり、アラカシなどの常緑樹が侵入するようになると、日照条件の悪化とともに衰退する。

【特記事項】

母種であるイワシモツケの溪流型と考えられている。

【執筆者】

石川慎吾



(公財)高知県牧野記念財団 四万十町 2018年6月16日

【生育状況と選定の理由】

本県では四万十川の中流から下流まで広く分布し、個体数も少なくない。全国的には、本県以外には徳島県と紀伊半島にのみ分布する希少な植物であり、環境省レッドリスト2020では準絶滅危惧（NT）に指定されている。高さ数十センチになる落葉低木であり、夏に美しい紫色の漏斗状の小さな花をつけ、観賞価値も高いので、栽培植物として利用されることも多い。

【分布】

本州（紀伊半島）・四国（徳島県・高知県）

【県内の分布】

四万十川（四万十町、四万十市）

【生育環境と特性】

トサシモツケと同様に、河岸岩上に生育する溪流沿い植物である。生育地は、洪水時には水につかり、夏の日照りの時には厳しい乾燥状態にさらされる過酷な立地であるが、根を岩の隙間に深く伸ばして生育することができる。暗い場所では生育できず、大型の植物に被われると消失する。

【特記事項】

二型花柱性がみられる。

【執筆者】

石川慎吾



(公財)高知県牧野記念財団 高知市 2015年8月6日

【生育状況と選定の理由】

全国での分布は局所的で環境省レッドリスト 2020 では絶滅危惧Ⅱ類 (VU), 他県では三重県, 徳島県, 熊本県が絶滅危惧Ⅰ類, 鹿児島県が絶滅危惧Ⅱ類。高知県内では東部から西部にかけての海岸沿いの林内にやや普通に生育する。高知県 RL2010 では準絶滅危惧 (NT) としていたが, 生育地点数や個体数も多く減少傾向にはないため注目種とした。

【分布】

本州 (三重県)・四国 (徳島県・高知県)・九州 (熊本県・鹿児島県), 台湾・中国 (南部)・ベトナム

【県内の分布】

東洋町, 室戸市, 奈半利町, 高知市, 土佐市, 須崎市, 中土佐町, 四万十町, 四万十市, 三原村, 土佐清水市

【生育環境と特性】

高知県では東部から西部までの海岸沿いの林内に生育する。どこにでもあるというものではないが, 自生地では群生することが多い。自生地では稚樹も多くみられ, 更新がうまく行われている。

【特記事項】

牧野富太郎が高知市五台山などの標本をもとに記載したもので, 種小名に高知の名を入れた。「安和天満宮のビロードムラサキ」は須崎市の天然記念物 (1973)。

【執筆者】

鴻上泰

タイキンギク

Senecio scandens Buch.-Ham. ex D. Don

高知県 RL2010: ー

高知県 RDB2000: NT

環境省 RL2020: NT



高橋真起 安芸市 2017年12月22日

【生育状況と選定の理由】

国内での分布は局所的であり、環境省レッドリスト2020では準絶滅危惧（NT）、三重県では絶滅危惧Ⅰ類、和歌山県では準絶滅危惧、徳島県では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。高知県 RL2010 では準絶滅危惧（NT）としていたが、生育地の確認数および個体数の増加により注目種とした。

【分布】

本州（三重県・和歌山県）・四国（徳島県・高知県）、台湾・中国・フィリピン・インドシナ？・ヒマラヤ地域・スリランカ

【県内の分布】

東洋町、室戸市、北川村、馬路村、奈半利町、田野町、安田町、安芸市、芸西村、香南市、南国市、高知市、土佐市、須崎市、中土佐町、四万十町、黒潮町

【生育環境と特性】

林縁、路傍、崖地などに生える。海岸近くだけでなく、やや内陸のやぶになっているところにもある。高知県東部の奈半利川沿いでは河口から10km奥でも生育している。多年生草本ではあるが消長が著しく、荒廃地で群生することや、従来見られたところで消失していることもある。

【特記事項】

牧野富太郎が小矢井賀や戸島の標本を引用して1892年に和名をユキミギクと命名し、のちに1896年にタイキンギクに改めた。

【執筆者】

鴻上泰


<文献一覧>

- Hayakawa, H., H. Hamachi, Y. Muramatsu, A. Hirata, Y. Minamiya, K. Matsuyama, K. Ito, J. Yokoyama, T. Fukuda. 2010. Interspecific hybridization between *Arisaema sikokianum* and *A. tosaense* (Araceae) confirmed through nuclear and chloroplast DNA comparisons. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*, 61: 57-63.
- 鹿児島県環境林務部自然保護課(編). 2016. 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編 - 鹿児島県レッドデータブック 2016. 一般財団法人環境技術協会.
- 環境省(編). 2020. 環境省レッドリスト 2020 <https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (2021年1月24日閲覧)
- 高知県林業振興・環境部環境共生課. 2011. ~高知県の絶滅のおそれのある野生植物~ 高知県レッドリスト(植物編) 2010年改訂版, 高知県林業振興・環境部環境共生課.
- 高知県, 財団法人高知県牧野記念財団(編). 2009. 高知県植物誌. 844pp. 財団法人高知県牧野記念財団, 高知県.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会(編). 2019. レッドデータブックくまもと 2019. <https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/108537.pdf> (2021年3月4日閲覧)
- 三重県農林水産部みどり共生推進課(編). 2015. 三重県レッドデータブック 2015 ~三重県の絶滅のおそれのある野生植物~. 三重県農林水産部みどり共生推進課.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩(編). 2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 平凡社, 東京.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩(編). 2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 平凡社, 東京.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩(編). 2016. 改訂新版日本の野生植物 3. 平凡社, 東京.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩(編). 2017. 改訂新版日本の野生植物 4. 平凡社, 東京.
- 大橋広好, 門田裕一, 邑田仁, 米倉浩司, 木原浩(編). 2017. 改訂新版日本の野生植物 5. 平凡社, 東京.
- Takahashi, D., T. Teramine, S. Sakaguchi and H. Setoguchi. 2018. Relative contributions of neutral and non-neutral processes to clinal variation in calyx lobe length in the series *Sakawanum* (*Asarum*: Aristolochiaceae). *Annals of Botany*, 121: 37-46.
- 田中澄江. 1980. 花の百名山. 文藝春秋, 東京.
- 寺峰孜. 1981. 高知県のカンアオイ類. 高知県の植物, 4: 79-134.
- 徳島県(編). 2014. 「徳島県版レッドリスト(改訂版) 8. 維管束植物」(とくしまの環境). https://www.pref.tokushima.lg.jp/kankyo/kankoubutu/red_date.html/ (2020年11月25日閲覧)
- 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室(編). 2012. 保全上重要なわかやまの自然 - 和歌山県レッドデータブック - [2012年改訂版]. 和歌山県環境生活部環境政策局環境生活総務課自然環境室.
- 財団法人高知県牧野記念財団(編). 2000. 高知県レッドデータブック [植物編] 高知県の保護上重要な野生植物. 高知県文化環境部環境保全課.

高知県レッドデータブック 2022										
植物編										
	①									
②	③	④	⑤	⑥						
⑧				⑦						
高知県注目種ガイド 2022 植物編										
⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	
高 知 県										

- ①香美市物部町三嶺
- ②ジョウロウホトトギス
- ③インヅチテンナンショウ
- ④イワザクラ
- ⑤クロガネシダ
- ⑥トサチャルメルソウ
- ⑦スナジマメ
- ⑧高知市国分川河口付近
- ⑨サカワサイシン
- ⑩ユキモチソウ
- ⑪タキユリ
- ⑫シコクフクジュソウ
- ⑬オオクサボタン
- ⑭トサミズキ
- ⑮ヒメキリンソウ
- ⑯トサシモツケ
- ⑰シチョウゲ
- ⑱ピロードムラサキ
- ⑲タイキンギク

高知県のレッドリスト・レッドデータブック更新情報はホームページで公開しています
 高知県のレッドリスト・レッドデータブックについて
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030701/2016032500041.html>
 (URLは令和4年3月31日現在)

高知県 レッドデータブック	検索 
---------------	--

高知県レッドデータブック 2022 植物編
 令和4(2022)年3月 発行

発 行 高知県林業振興・環境部 自然共生課
 〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
 TEL(088) 821 - 4842

編 集 高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会

印 刷 弘文印刷株式会社
 〒780-0863 高知県高知市与力町5番16号
 TEL(088) 822 - 0240

高知県注目種ガイド 2022 植物編
 令和4(2022)年3月 発行

発 行 高知県林業振興・環境部 自然共生課
 〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
 TEL(088) 821 - 4842

編 集 高知県レッドデータブック(植物編)改訂委員会

印 刷 弘文印刷株式会社
 〒780-0863 高知県高知市与力町5番16号
 TEL(088) 822 - 0240

